

図1 調査範囲

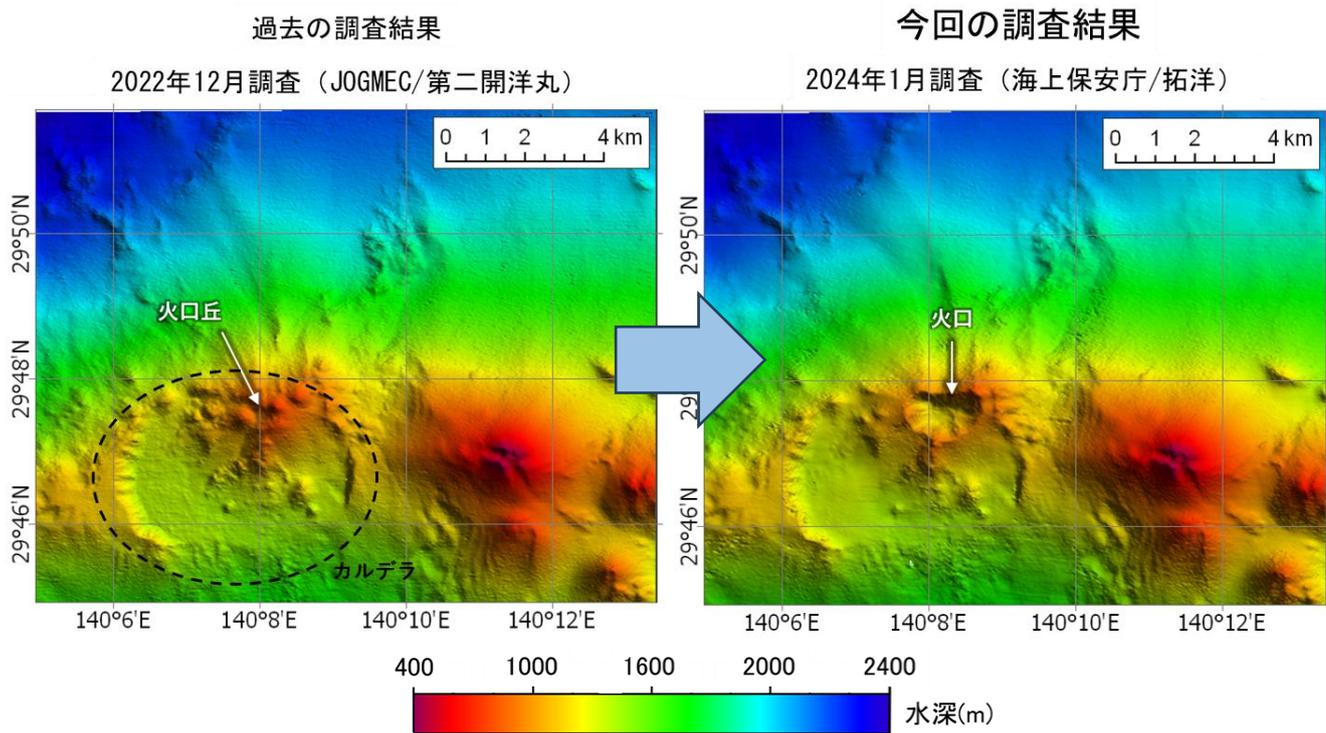


図2 2022年12月調査(左)と2024年1月調査(右)の海底地形図

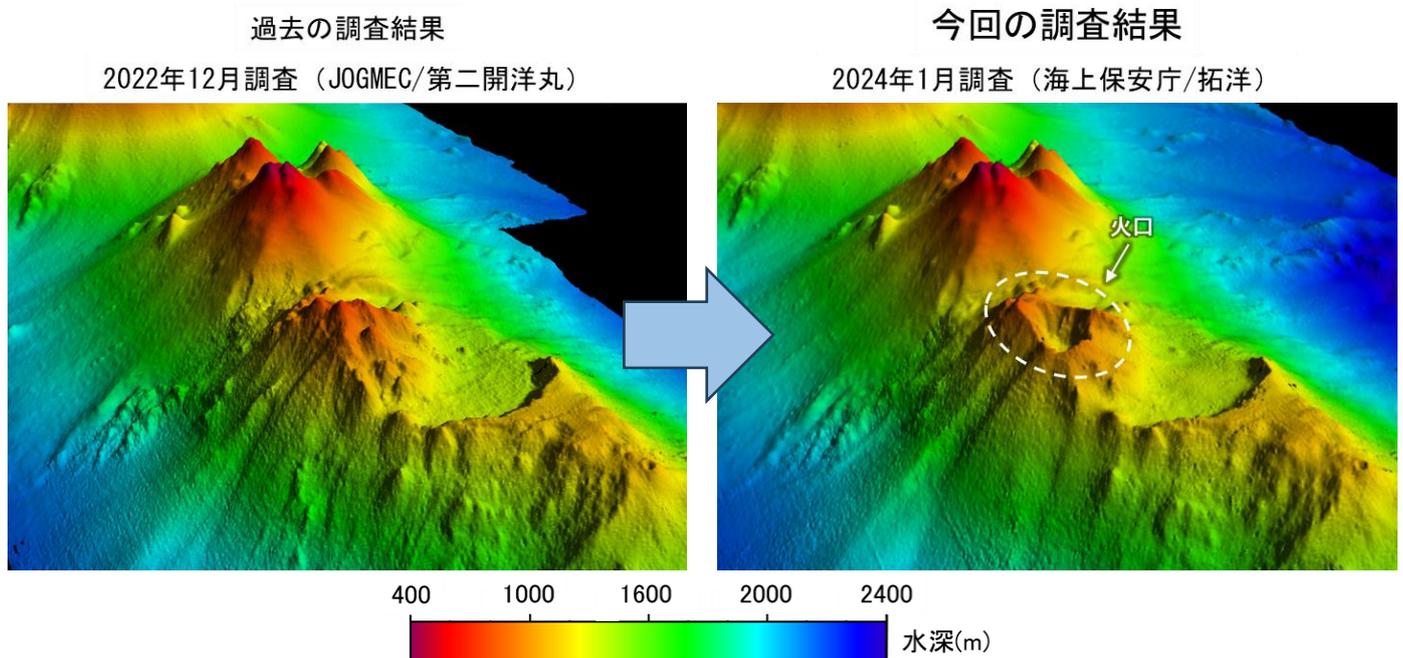


図3 2022年12月調査(左)と2024年1月調査(右)の鳥観図  
(北西から俯瞰、鉛直方向を3倍に誇張)

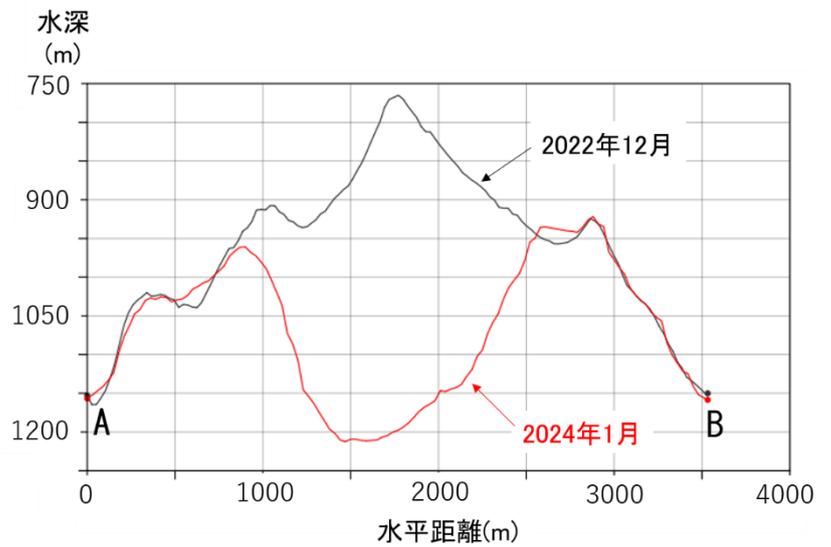
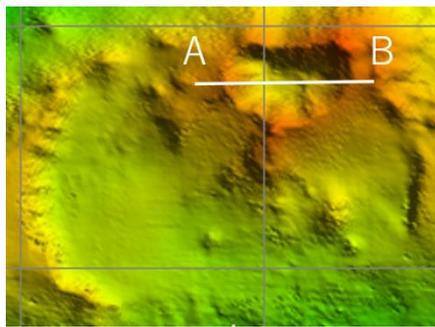


図4 火口付近（上図白線）における断面図  
 （赤線：2024年1月調査 黒線：2022年12月調査）

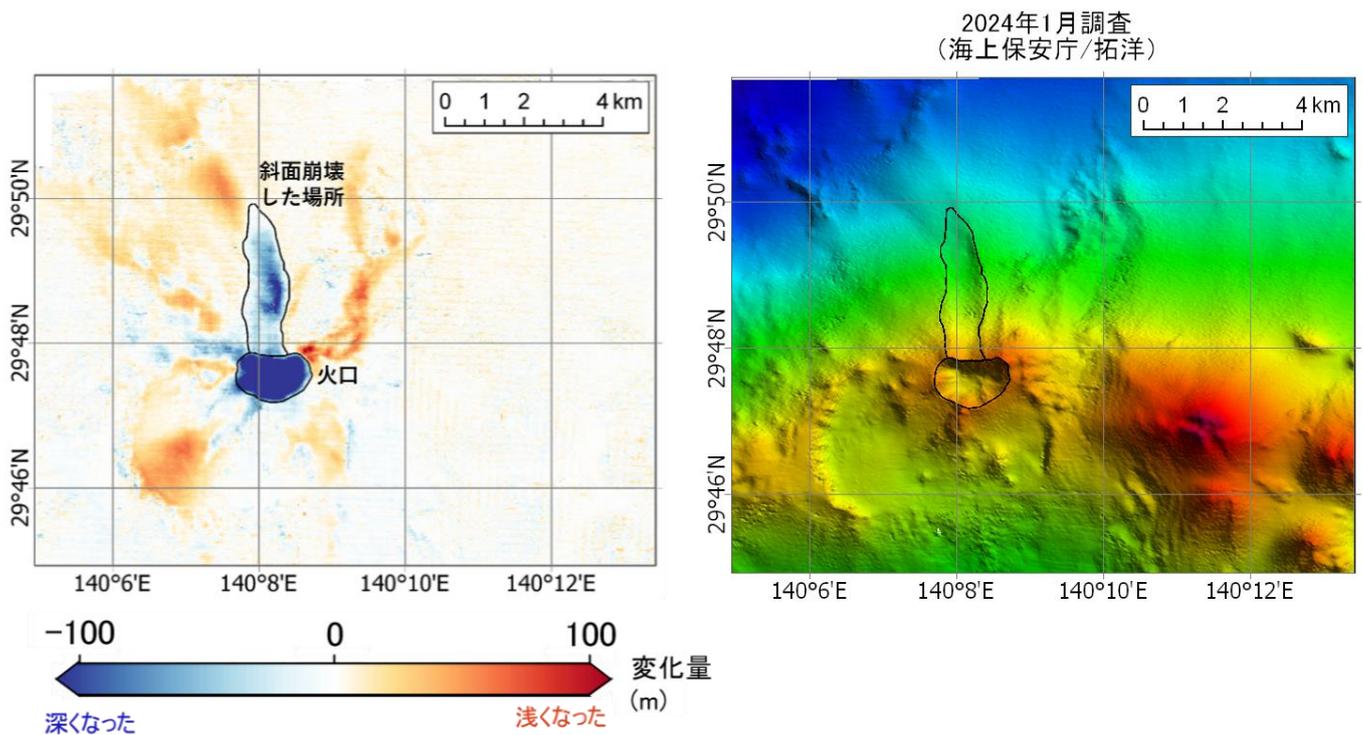


図5 2024年1月調査と2022年12月調査の地形変化図（左）

火口の形成によって約4.3億 m<sup>3</sup>の体積（東京ドーム約350杯分）が失われました。これは標高約400mの富士山型の山が消失したのと同程度の規模です。また、火口の北側の斜面崩壊によって約1.4億 m<sup>3</sup>の体積が失われました。

## 参考1 測量船「拓洋」による海底地形調査について

海底地形調査は、測量船「拓洋」に搭載しているマルチビーム測深機を使用して実施しました。マルチビーム測深機は、船底の送受波器から海底に向けて音波を扇形に発射し、反射した音波を受信することで、面的に海底地形を調べることができます。

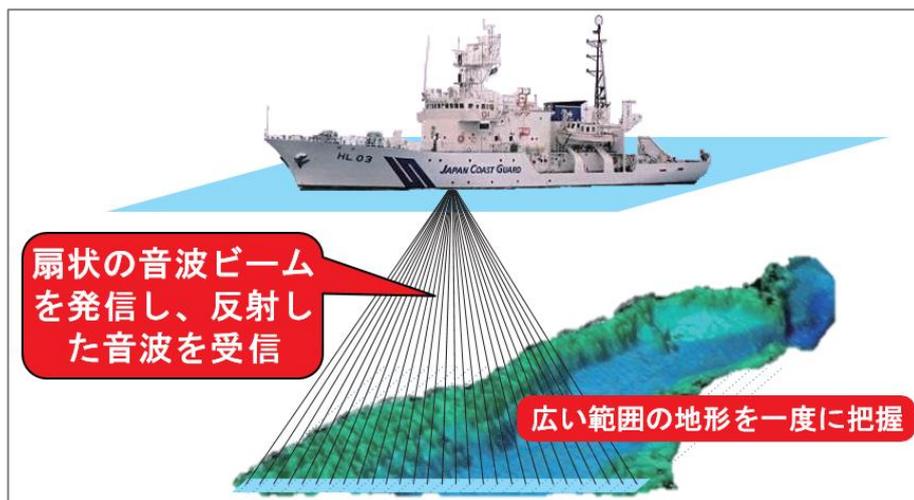


測量船「拓洋」

### 【船体要目】

就役年月	昭和58年8月
総トン数	2,400トン
全長	96.0メートル
幅	14.2メートル

## マルチビーム測深機について



## 参考2 関連広報

- ・令和5年10月20日 鳥島近海の浮遊物について（10月20日観測）